

慶應医学会 ニュースレター

～The Keio Medical Society～

Vol. 27 2022.2.

2021年9月11日開催 第101回慶應医学会総会・シンポジウムご報告

<総会> (※開催当時の役職名にて記載しております)

2021年9月11日(土)に慶應医学会総会をWEB開催(Live配信)にて開催いたしました。総会では、天谷雅行会長による物故者への黙祷より総会議事に進み、会員の皆様方より承認をいただきました。また併せて、野村達次賞授与式も行われました。以下に主な内容をご報告いたします。

【総会議事次第】

会長挨拶

(天谷雅行会長)

2020年総務報告・2021年中間総務報告

(天谷雅行会長)

2020年会計報告・2021年中間会計報告

(松尾光一会計担当理事)

2022年予算(案)・2022年事業計画(案)報告

(天谷雅行会長)

その他

(天谷雅行会長)

野村達次賞について

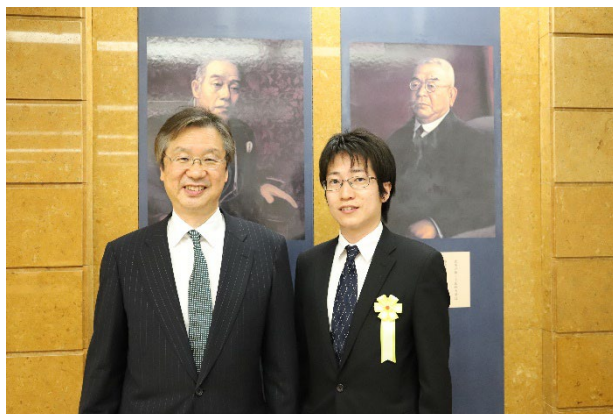
(小崎健次郎野村達次賞審査委委員長)

・2022年予算(案)、2022年事業計画(案)

2022年の予算(案)として、①「生涯教育研修セミナー」の協賛 ②『KJM』誌発刊費用補助および投稿補助 ③会員向け「学会ニュースレター」の発行 ④野村達次賞賞金 ⑤国際メディカルアライアンスジョイントサマースクール補助費 ⑥アカデミックリサーチオーガニゼーション整備へ寄附を継続、そして、予算に計上することが承認されました。

・野村達次賞について

厳正なる審査の結果、8回受賞者は杉本真也助教(慶應義塾大学医学部 坂口光洋記念講座(オルガノイド医学))に決定いたしました。授与式では賞状と目録が授与されました。



<慶應義塾大学病院・三四会・慶應医学会 100 年合同記念式典・シンポジウム>

式典

司会		小川 彩佳
記念ムービー上映		
式辞	塾長	伊藤 公平
	病院長	松本 守雄
	三四会会長	武田 純三
	医学会会長	天谷 雅行
来賓祝辞	連合三田会会長	菅沼 安嬉子
	北里研究所理事長	小林 弘祐

シンポジウム

次の 100 年へ For the Next 100 years

開会の辞 北川 雄光 (慶應義塾常任理事)

第 1 部 次世代を見据えた医療と人材育成

座長 戸山 芳昭 (慶應義塾大学名誉教授)

池田 康夫 (慶應義塾大学名誉教授)

講演者 佐々木 淳一 (慶應義塾大学医学部救急医学教室教授)

陣崎 雅弘 (慶應義塾大学医学部放射線科学教室 (診断) 教授)

門川 俊明 (慶應義塾大学医学部医学教育統轄センター教授)

第 2 部 世界を先導する最先端の慶應医学

座長 猿田 享男 (慶應義塾大学名誉教授)

末松 誠 (慶應義塾大学医学部医化学教室教授)

竹内 勤 (慶應義塾大学名誉教授)

講演者 金子 祐子 (慶應義塾大学医学部内科学教室 (リウマチ・膠原病) 教授)

岡野 栄之 (慶應義塾大学医学部生理学教室教授)

佐谷 秀行 (慶應義塾大学医学部先端医科学研究所 遺伝子制御研究部門教授)

第 3 部 慶應医学のあゆみとその先

座長 村井 勝 (慶應義塾大学名誉教授)

相川 直樹 (慶應義塾大学名誉教授)

講演者 山内 慶太 (慶應義塾常任理事)

向井 千秋 (東京理科大学特任副学長)

閉会の辞 金井 隆典 (慶應義塾大学医学部長)

【慶應医学会創立 100 年に寄せて】

慶應医学会 前会長 天谷雅行

慶應医学会は、1917 年医学部が開設された 3 年後、1920 年に創立されました。

当時は「慶應医学会」と「慶應医学社」として創立され、1928 年に両者は合併されています。第 1 回慶應医学会総会が 1920 年 11 月 8 日に医学部信濃町キャンパスにおいて開催され、この日の総会において会則、役員の方針などが行われました。以後、2 度の世界大戦により学会活動は途絶えたこともありましたが、慶應医学会は、「医学の進歩と啓発を図ること」を目的として、慶應医学部の事業の一部を展開する形で、医学部とともに発展して、2020 年に創立 100 年を迎えました。2022 年現在、慶應医学会は、慶應義塾大学医学部・大学院医学研究科の教員、大学院生をはじめとして様々な団体・機関の約 4000 人の会員により構成されています。

慶應医学の大切な事業のひとつに、公式学会誌の発刊があります。1921 年に、「慶應医学」の第 1 巻第 1 号が、慶應医学社より創刊されました。医学に関する最新の学術知識および情報の公開および共有を目的として、特別寄稿、総説、講座、原著、学位論文など、数多くの優れた慶應医学の発展に貢献する業績が発表されました。医学部の財務改革施策、若手医師支援策の一環により、2009 年、第 85 巻第 2 号を最後に休刊となりました。

「慶應医学」の休刊に伴い、1952 年に創刊された「The Keio Journal of Medicine」が、2008 年より、慶應医学会のオフィシャル・ジャーナルとなり、国際化により力をいれて行くこととなります。2019 年より、理工学部、看護医療学部、薬学部の方々が編集委員に加わり、対象論文を Medicine から、Life Science の分野へ拡大しました。さらに、Online Journal への移行、Impact Factor の獲得を目指して、進化を続けています。

慶應医学会のもうひとつの大切な事業に、年 1 回の総会・シンポジウム、年 20 回程度随時開催される例会があります。総会・シンポジウムでは、その時々で最も関心の高いテーマが選ばれ、ノーベル賞受賞者を始め第一線の研究者が講演者となり、最先端の医学、生命科学を議論する貴重な機会を提供してきました。2020 年、COVID19 のパンデミックにより、病院・三四会・医学会の合同シンポジウムが延期された際も、新型コロナウイルス感染症に関するシンポジウムが WEB 開催され、生配信されました。

慶應医学会最高賞として、明確な臨床応用を見据えた in vivo 実験医学において、世界に真価を問う斬新な医学研究を対象として、2014 年「野村達次賞」が設立されました。以後、慶應医学の目指す「臨床医学に貢献する基礎医学」に貢献した若手研究者が顕彰されています。

次の 100 年に向けて、慶應医学会が益々発展し、世界の先導者となる多くの若手研究者を輩出する基盤となり続けることを祈念しています。

慶應医学会ホームページについて

慶應医学会ホームページ（URL：<http://www.keiomedsoc.org/>）では例会開催情報や例会講演の抄録、医学部に新しく就任された教授・准教授・講師の先生よりご寄稿いただいたご挨拶や抱負なども掲載いたしておりますので、是非一度ご利用ください。

2022年2月18日開催 慶應医学会理事会・評議員会について

2022年2月18日（金）に、WEB開催にて、慶應医学会理事会・評議員会を開催いたしました。理事会・評議員会においては、各担当理事により2021年の総務報告、会計報告が行われました。その詳細につきましては、2022年11月に開催予定の慶應医学会総会においてご報告させていただく予定です。

2022年11月開催 慶應医学会シンポジウムのご案内

第102回慶應医学会総会シンポジウムは2022年11月に開催する予定となっております。総会シンポジウムの詳細につきましては、慶應医学会ホームページおよび9月に発行予定の次号ニューズレター等にてご案内させていただきます。

事務局より

第27号となる本号は、昨年9月に開催した慶應医学会総会・シンポジウムを中心にご案内をさせていただきました。

なお、配送物が宛先不明で返送されることが増えていることから、ご一読の上、会員情報のご変更がございましたら事務局までご連絡下さい。

ニューズレターに関するご意見・ご要望などがございましたら、事務局にお問い合わせの程よろしくお願いいたします。（事務局）

発行：慶應医学会 〒160-0016 東京都新宿区信濃町 35
TEL：03-5363-3736 FAX：03-5361-7091 E-mail：keio-igakkai@imic.or.jp